

第12回産学官連携功労者表彰 における国土交通大臣賞の受賞 について

道路交通研究部 高度道路交通システム研究室

室長 牧野 浩志 主任研究官 鹿野島 秀行 研究官 (博士(工学)) 鈴木 一史

(キーワード) ITS、高速道路サグ部、渋滞対策、産学官連携



1. はじめに

道路交通研究部高度道路交通システム研究室は、これまで産学官で連携して取り組んできた「高速道路サグ部等交通円滑化システム」の開発に対し、国土技術政策総合研究所、東京大学生産技術研究所大口敬教授、スマート交通流制御研究会の三者が、第12回産学官連携功労者表彰における国土交通大臣賞を受賞した(写真)。本表彰は、企業・大学・公的研究機関等の産学官連携活動で大きな成果を収め、あるいは先導的な取組を行う等、産学官連携活動の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その個人又は団体の功績を称えることで我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与することを目的に、平成15年より行われているものである¹⁾。

2. 受賞概要

都市間高速道路の渋滞の約6割はサグ部とよばれる勾配変化区間で起きており、その対策が急務である。国土技術政策総合研究所は平成22年度より「高速道路サグ部等交通円滑化研究会」を立ち上げ、研究会座長である東京大学大口敬教授の指導の下、スマート交通流制御研究会の構成メンバーである自動車メーカー5社(トヨタ/日産/ホンダ/マツダ/富士重工)と協働で、道路と自動車が連携した「高速道路サグ部等交通円滑化システム」の研究開発に取り組んできた。本システムは、高速道路サグ渋滞の根本原因の究明を進めてきた大口敬教授をはじめとする学の知見をベースに、情報板やカーナビによる情報提供とともに、これまで快適性を目的として開発されてきた自動車技術であるACC(車間や車速を自動で一定に維持する機能)を渋滞対策に活用するサービ



写真 本研究の産学官関係者および表彰授与者

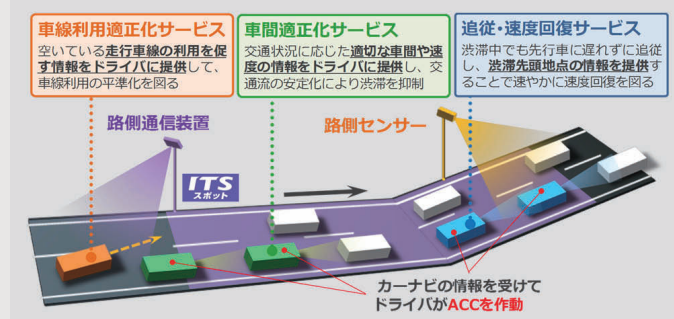


図 システムが提供するサービスのイメージ
s²⁾をドライバーへ提供するものである(図)。

3. 今後の展開

今後は、産学官の一層の連携強化を図り、各サービスの実用化に向け、開発目標や全国レベルでの渋滞緩和効果について、各種走行実験やコンピュータシミュレーション等を通じて明らかにしていく予定である。

【参考】

1) 内閣府HP：産学官連携功労者表彰

<http://www8.cao.go.jp/cstsp/sangakukan/index2.html>

2) 国総研ITS研究室HP：ITSに関する研究「路車連携した高速道路サグ部等における交通円滑化に関する研究」

<http://www.nilim.go.jp/lab/qcg/japanese/2research/1field/36smoothingthingsag/index.htm>